

第1講座 小説文(1)

1 次の文章は、夕方になつても帰つてこない弟二人を、母に命じられて「私」が捜しにいく場面です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

まず私は近所の○○さんや××堂へ行つて、弟たちを見なかったかとか、どこかへ行くと言っていなかったかと言つて聞きたしたが、何の手懸かりもえられなかつたので、不平でぶーぶー膨れ面をしながら、暗い路を○○神社の方へあるき出した。私の心の中の不平は憤りとなつて、その道々弟たちの上に燃えた。

「
」

しかしその報いられない捜索が別に確かなあてのあるものでもなく、そして何というつまらなく腹立たしいことを強いられているのだらうと思ひながら、その賑やかな通りを歩いていると、小料理屋の格子から冷たい夜気の中へ白く湧き出てくる湯気や、醤油のたきつまる匂いは堪らなく私の空腹を淋しがらせはじめたのだつた。するとまた、こんな考えも浮かんでくる。——（もう彼等は家に帰っているかもしれない）そんな気持ちに湧いて来ると、一人で空腹を押さえながら不熱心にその辺りをほつつき歩いている私には、その好都合な想像が、やがて本場の事実として映るようになり、無責任にいい加減歩きまわつたのを機会に、私はまた急いで家へ帰りはじめた。

「帰つていたら、いきなり撲つてやる。」

私はまだ不平を街上に鳴らしながら家まで帰つた。

しかし私のその急き込んだ予想も、家のしきいをまたいだ瞬間に、それが裏切られていたことがわかつた。弟たちはまだ帰っていなかつた。しかし会社からは父が帰っていた。

「どうだった。」

父が尋ねた。

「○○神社へ行つたのですがいませんでした。」

「××町は。あの●●は。」

「行きませんでした。」

「あそこを捜しておいで。」

空腹の私に飯も食わさないうで、もう一度近くもない××町までやろうとする父の気持ちに、乱暴にも、残酷にも言語道断に思えた。（飯も食わずに○○神社まで行つたんだぞ）と心の中ではぶんぶん憤っていた。父の前には温かな湯気を立てている鍋があつた。私はその匂いに力強くひきつけられた。

さつき食わずに出たものを、母がなぜ、飯を食ってからゆけと言わないうのだらう。私にはそれがまた腹立たしかつた。私はまたこじれた考えを抱いた。ここで飯を食おうと言いはらう。父は私がもう飯をすませたことだと思つていただろうから、私がすぐにゆけるつもりでいたのだらう。それだから、飯を食おうと言うともどかしがつて、飯は後にしてと言うだらう。そこで口答えをしてやろう。別にそのように意地悪い論理を働かした訳ではなかつたにせよ、飯を食わせろと言つた私の心は、不平のあまりたしかにその辺を大きく狙つていたに違ひなかつた。

「さきにご飯を食わさせてもらいます。」

「なんだ、ご飯はあとにしてすぐ行つておいで。」

「お腹がへつてゐんです。」

「それじゃ三郎や四郎はどうなんだ。あれらも腹を空かせてるじゃない

か。」

③「それは勝手です。」

④自分ながら言い切ったなと思った。

父が見る見る目に角を立てるのを母は制しながら、さつき食ってゆけと言ったのを食わずに行ったのだからと言って、飯の用意をしてくれた。

(梶井基次郎『夕風橋の狸』)

*1不平を街上に鳴らしながら「不平を道々言いながら。

問一 線ア～ウの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

ア	れ	イ	ウ	い
---	---	---	---	---

問二 にはあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 家に帰ったら腹一杯食うぞ。

イ まさか事故になどあってやしないだろうな。

ウ 捕まえたら、撲りつけてやる。

エ いったいどこに消えたのだろう。

問三 線①「その都合な想像が、やがて本当の事実として映るようになり」とは、具体的にはどうなったということですか。

問四 線②「意地悪い論理」とありますが、どのような点が「意地

悪い」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 「私」が弟たちを捜しにいかないと両親が困ることを見越して、捜しにいかないといい張ろうとしている点。

イ 食事をしようとしている父に、「私」がまだ食事をしていないことを教えて気まずい思いをさせようとしている点。

ウ 「私」がまだご飯を食べていないのを父が知らないことを利用して、口答えをしようとしている点。

エ 弟たちを心配している父に口答えをして、「私」と弟たちのどちらが大切かを考えさせようとしている点。

問五 線③「それは勝手です」とは、どういうことですか。最も適

当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 父が「私」よりも弟たちのことを心配するのは親として身勝手であるということ。

イ 弟たちが腹を空かせているのは、弟たち自身の責任であるということ。

ウ 「私」が腹を空かせているのは、弟たちが腹を空かせていることが原因であるということ。

エ 「私」がご飯を食べるのは、「私」の当然の権利であるということ。

問六 線④「自分ながら言い切ったなと思った」という表現から感

じられる「私」の気持ちを簡潔に説明しなさい。

第10講座 古文(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

無益のことをなして時を移すを、愚かな人とも、ひがごとする人ともいふべし。国のため、君のために、止むことを得ずしてなすべきこと多し。そのあまりの暇いくばくならず。思ふべし、人の身に止むことをえずして営むところ、第一に食ふもの、第二に著るもの、第三に居るところなり。人間の大事、この三つには過ぎず、飢えず、寒からず、風雨にをかされずして、しづかに過ぐすを **A** とす。ただし人みな病ひあり、病ひにをかされぬれば、その **B** 忍び難し。医療を忘るべからず。薬を加へて四つのこと、求め得ざるを貧しとす。この四つ欠けざるを富めりとす。この四つの外を求め営むを **C** とす。四つのこと儉約ならば、誰れの人か足らずとせむ。

(兼好法師『徒然草』)

10

問一 線①「ひがごとする」の文中の意味として最も適当なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 優れてかしこくふるまう。

イ 華美を好み贅沢なことをする。

ウ 粗野で乱暴なふるまいをする。

エ 道理に外れたことをする。

問二 線②「そのあまりの暇」とは、どのような意味ですか。最も

適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 義務的な職務などをする以外の時間。

イ なすべきこともなく無駄に過ごした時間。

ウ 生きるための最低限の労働をしたあとの時間。

エ 慣習的なつき合いのためにさく時間。

問三 線③「思ふべし」とありますが、何について考えてみるように言っていますか。

問四 **A**～**C**にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうち

から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア うれひ イ 楽しみ

ウ おごり エ たより

問五 線④「誰れの人か足らずとせむ」の意味として最も適当なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 誰に足りていると信じさせられよう。

イ 誰も満足だとは言わないだろう。

ウ 誰が足りないとするであろうか。

エ 誰かが不足だと責めるであろう。

問六 筆者の説く貧乏と富裕とは、それぞれどのようなのですか。簡潔に説明しなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十日の夜の月いでにけり。山の端もなく、□の中よりぞいで来る。かうやうなるを見てや、昔、阿倍の仲麻呂といひける人は、もろこしに渡りて、帰り来ける時に、舟に乗るべきところにて、かの国人馬のはなむけし、別れ惜しみて、かしこのからうたつくりなどしける。あかずやありけむ、二十日の夜の月いづるまでぞありける。その月は海よりぞいでける。これを見てぞ、仲麻呂の主、わが国にかかる歌をなむ神代より神もよんたび、今は上中下の人も、かうやうに別れ惜しみ、喜びもあり、悲しみもある時にはよむとて、よめりける歌、

青海原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも
とぞよめりける。

(紀貫之『土佐日記』)

10

- *1 かうやうなるを□このような光景を。
- *2 阿倍の仲麻呂□奈良時代、留学生として唐に渡った。
- *3 よんたび□お詠みになり。
- *4 青海原□古今和歌集では「天の原」となっている。
- *5 ふりさけ見れば□はるか遠方を望み見ると。

問一 □にあてはまる漢字一字を書きなさい。

問二 — 線①「かの国人馬のはなむけし」の意味として最も適当なもの

- ア 阿倍の仲麻呂が別れのあいさつに来て。
- イ 阿倍の仲麻呂が旅立ちの合図をして。
- ウ もろこしの人が歓迎の言葉を述べて。
- エ もろこしの人が別れの宴を開いて。

問三 — 線②「からうた」とは、何ですか。最も適当なものを次のう

- ア 短歌
- イ 長歌
- ウ 和歌
- エ 漢詩

問四 — 線③「あかずやありけむ」の現代語訳として最も適当なもの

- ア なお満足しなかったからであるうか。
 - イ 夜が明けなかったからであるうか。
 - ウ あたりが暗かったからであるうか。
 - エ 潮が舟出に適さなかったからであるうか。
- か。文脈から考えて、二字の熟語で答えなさい。

問五 — 線④「上中下」とは、人間の何について言っている言葉です

問六 — 線⑤「三笠の山」とは、どこにある山ですか。文中から地名を書き抜きなさい。

問七 「青海原」の歌について説明した次の文の□a・bにあてはまる言葉として最も適当なものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 作者(紀貫之)
- イ 阿倍の仲麻呂
- ウ もろこしの人
- エ もろこし
- オ ふるさと

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、もろこしに、莊子といふ人ありけり。家いみじうまづしくて、けふの食物たえぬ。隣に、河侯といふ人ありけり。それがもとへ、けふ食ふべき料の粟を乞ふ。

河侯がいはいく、「いま五日ありて、おはせよ。千両の金をえんとす。それを奉らむ。いかでか、やんごとなき人に、けふ参るばかりの粟をば奉らん。返々おのが恥なるべし」といへば、莊子のいはく、昨日道をまかりしに、跡によばふ声あり。かへりみれば人なし。ただ車の輪跡のくぼみたる所にたまりたる少水に、鮒一つふためく。何ぞの鮒にかあらんと思ひて、よりてみれば、少しばかりの水に、いみじう大なる鮒あり。『何ぞの鮒ぞ』と問へば、鮒のいはく、『我は河伯神の使に、江湖へ行くなり。それが飛びそこなひて、この溝におち入りたるなり。喉かはき、死なんとす。われをたすけよと思ひて、よびつるなり』といふ。答へていはく、『吾今二三日ありて、江湖といふ所に、あそびしに行かむとす。そこにもて行きて、はなさむ』といふに、魚のいはく、

『さらにそれまで、え待つまじ。ただけふ一提ばかりの水をもて、喉をうるへよ』といひしかば、さてなんだすけし。鮒のいひしこと、わが身にしりぬ。さらにけふの命、もの食はずは、いくべからず。後の千の金、さらに益なしとぞいひける。

それより「後の千金」といふこと名譽せり。

*1 参る＝召し上がる。

*2 河伯神＝河を守護し統括する神。

*3 江湖＝地名。

*4 一提ばかりの＝提（水や酒などを温めたり、杯についだりするために用いる金属性の容器）いっぱいほどの。

*5 名譽せり＝有名になった。

問一 線a・bの意味をそれぞれ書きなさい。

a) _____
b) _____

問二 線①「跡によばふ声あり」とありますが、誰が何のために声をかけたのですか。二十字以内で説明しなさい。

問三 線②「何ぞの鮒にかあらん」、③「さらにそれまで、え待つまじ」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ② ア おそらく鮒であるだろう。
イ どうして鮒なんかであるだろう。
ウ どういった鮒なのであろう。
エ どこに鮒がいるだろう。

- ③ ア これ以上逃がしてもらうことまで期待できない。
イ あと二、三日江湖へ行くまで待たねばならない。

ウ これ以上遊んでいるわけにはいかない。

エ あと二、三日も待つことは決してできない。

問四 — 線④「一提ばかりの水」とありますが、莊子にとってこれに

相当するものは何ですか。文中から十字以内で書き抜きなさい。

問五 — 線⑤「さてなんとすけし」とありますが、具体的にはどうし

たということですか。十五字以内で書きなさい。

問六 文中には、莊子の言葉で「」をつけるべき部分が一か所ありま

す。その部分の初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

問七 — 線⑥「それより『後の千金』といふこと名譽せり」とありま

すが、文中の話から、「後の千金」はどういう意味の教訓になったと

考えられますか。三十字以内にまとめて書きなさい。

2 次の漢詩とその現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

宿建德江

孟浩然

移舟泊煙渚

舟を移して 煙渚に泊す

日暮客愁新

日暮 客愁新たなり

野曠天低樹

野曠くして 天 樹に低く

江青月近人

江青くして 月 人に近し

〔現代語訳〕 船を岸によせて霧がかかるなぎさに停泊した。日が暮れる

と、旅愁はあらためていちだんと深まる。野は果てしもなく、遠くひろ

がる空は木々の梢よりも低く垂れ、水は清く澄んで、流れに浮かぶ月か

げはわたしに近づいてくるように感じられる。

問一 この漢詩の形式として最も適当なものを次のうちから選び、記号

で答えなさい。

ア 五言絶句 イ 七言絶句

ウ 五言律詩 エ 七言律詩

問二 — 線①「移舟泊煙渚」に、書き下し文を参考にして返

り点をつけなさい。

移舟泊煙渚

問三 — 線②「野曠天低樹」と、表現が対になっている部分

を、漢詩の中から書き抜きなさい。

問四 この詩にこめられた作者の気持ちを最も簡潔に表した言葉を、漢

詩の中から二字で書き抜きなさい。
